

第一回本邦研修

11月23日～12月5日、本プロジェクトにとっては第1回目となる本邦研修を実施しました。参加者はタイ国で人身取引に取り組んでいるMDTメンバー15名でした。MDTの名に恥じない多様な専門家からなる団員構成で、ヤニー社会開発人間安全保障省 社会開発福祉局副局長を団長に、サワニー人身取引対策部の部長、以下人身取引対策部の主だったスタッフ、各地のシェルター所長、チェンライ、パヤオ県の人身取引対策センター担当者、警察、入管、検察、NGOからなる錚々たる顔ぶれでした。まさに、タイの最前線で人身取引に取り組んでいる精鋭たちです。これほどの人身取引専門家がまとまって日本を訪問することは今後ないのではないかと思います。JICAタイ事務所のご高配により専門家1名が随行できましたのはありがたいことでした。

今回の研修の目的は大きく2つありました。第一は、日タイ両国の人身取引対策についての相互理解を深めること、第二に、参加メンバーが研修を通じて人身取引被害者保護・自立支援に向けてのMDT強化に資する知見を得ることです。

そのための研修内容としては次のものがありました。①日本政府の取り組みとその実態を理解するための活動。具体的には、関係省庁を訪問しお話を伺い、意見交換しました。また、活動の現場となる地方自治体（警察や婦人相談所など）の関係部署を訪問し、お話を伺いました。②日本の民間団体の取り組みとその実態を理解するための活動。長年さまざまな分野で取り組んでこられたNGOの方のお話をうかがい、活動現場を訪問しました。③在日タイ人の実態を理解する活動。人身取引被害者を支援していらっしゃる在日タイ人から、タイ人人身取引被害者の実態を聞きました。

④日本の取り組みを通じて、タイにおけるMDT活動にどう反映するかを考える。これは、ワークショップや評価会を通じて行われ、例えば情報の整理など参考になる点がいくつかあげられました。

⑤日本とのネットワークの強化のための活動。これは今回日本で、人身取引に取り組んでいらっしゃる各分野の方々と直接お会いし、意見交換できたことで達成されました。

それぞれの訪問先では、事前に周到にご準備下さった資料に基づきご丁寧にご説明くださり、また可能な限り施設も見せて下さいました。ご説明くださった日本の方々には口々に日本では人身取引を重要な再策課題だと認識しているとおっしゃり、参加者も、国は違えど思いを同じくする人がいることに意を強くしたようです。

2週間の研修を終えて参加者は、今回の研修の成果として、第一に、日本の人身取引対策についてよく知ることができたことを挙げておりました。また、被害者や加害者に関する情報の日タイ間の共有も、参加者の主な関心事の一つでしたが、これに関しても、日本でできることできないことが丁寧に説明され、理解が進みました。



日本ではちょうど、人身取引行動計画の改訂のためにパブリックコメントを募集している時期でした。このような時期に日本での取り組みの

進展を目のあたりにできたのは幸いなことでした。このような日本での取り組みがあつてこそ、本プロジェクトの実施が可能になったと思います。

人身取引に関する包括的な法律とそれに基づく担当部署があるタイと、行動計画に基づいて関係省庁が自発的に取り組んでいる日本ではアプローチが異なりますが、それぞれの取り組みの特徴を知ることができたことは良かったと思います。

写真：ヤニー副局長と河合内閣参事官



目的に掲げていた以外の成果もありました。その一つが参加したタイ人 MDT メンバーの間のきずなが強まったことがあります。日頃は別々の組織で働いている人たちが 2 週間行動を共にしたことで親しくなり、協働の基盤が強まったようです。これは今後の MDT 活動の推進につながる利点だと参加者も認識しておりました。帰国後早速に地方からの参加者が中央からの参加者と連絡を取ることができ、問題の進展につながったとのうれしい報告も聞きました。また日本では、人身取引被害者保護の現場や啓発活動は女性に対する暴力と同じ枠組みで行われています。タイでも事情は似ておりますので、日本の女性に対する暴力への取り組みも知ることができ興味深かったようです。

さらに、日本の訪問先での対応が非常に丁寧なこと、研修プログラムの運営が予定通りきちん

と行われていること、多くの関係者が細やかな心配りをして下さっていることにも参加者はいたく感銘を受けたようです。日本の社会を支えている根幹となる仕事に対する態度を理解していただいたのは、日本での研修ならではの成果といえます。

今後の研修を計画するに当たり参考になる点もありました。日本側の取り組みを聞くことに時間の多くを費やしてしまい、タイ側の取り組みの説明をする時間が少なかったことはその一つです。受け入れてくださった日本の組織の方々から、もっとタイの取り組みを知りたかったのにと残念がる声を聞きました。今後はもっと意見交換の時間を持つ必要性を痛感しました。

参加者たちはほんとうに積極的で、2 週間の滞在期間中の唯一の週末の夜には、3 時間も話し合いの時間を持ったそうです。このように見たこと、聞いたことを自分たちの間で確認することは理解を深めるために重要だと思いました。11 月下旬から 12 月の日本での滞在なので寒さが心配でしたが、幸いにもちょうど寒気の谷間で、参加者は風邪をひくこともなく無事に帰国できたことは幸いでした。

最後になりましたが、ご多忙中のところ、研修をお引き受け下さいました多くの受け入れ機関の皆様にご心より感謝申し上げます。また、このプログラムを作成し、研修を実施して下さいました国立女性会館の皆様にお礼申し上げます。国立女性会館でのこの分野でのこれまでの蓄積された知見があつてこそ今回の充実した研修が可能になったと思います。